

音楽会  
Music Concert

6月9日(金)

19時開演(開場18時30分)  
出演/こぐれみわぞう、大熊ワタル、近藤達郎

ここで述べる詩学とは、こうした既成の価値観や秩序を刷新する、新たな感性的次元を、発見する方法である。『「ニグロ」は「奴隷」という意味で長らく使用されてきた他称にして蔑称だったが、むしろこれを引き受けて肯定するために、エメ・セゼールが発明した語こそ「ネグリチユード」である。

チケット予約  
はこちらから



死者たちの夏2023

ジェノサイドをめぐる音楽と文学の3日間

憎悪と嘘に慣れたこの国は  
自らの墓標を立てねばなるまい  
ぼくらはおまえを夜のみにのむ  
夜明けの黒いミルク

朗読会  
Reading Performances

6月10日(土) & 11日(日)

14時開演(開場13時30分) 演出/堀内仁 音楽/近藤達郎  
出演/新井純、門岡瞳、杉浦久幸、高木愛香、高橋和久、瀧川真澄、平川和宏

私たちがそれらの言葉のなかに読みとるべきは、そうした生者の脳裏に住みついていた数々の死者の気配であり、先に死んでいった者たちにその生者らがいだいた数々の感情の様態についてである。『「群れなす死者」たちは、それぞれのやり方で生きている人間にその気配を送り届ける。『ホロコースト文学』を読むとは、そうした「群れ」にとりかこまれて、わずらわされたり癒されたりする生を「残された生」として生きた人間のおごりな誠実さやおびえに、こちらもまた居住まいを正して粘り強く向きあっていく作業にほかならない。

会場:調布市



せんがわ劇場  
SENGAWA THEATER

京王線仙川駅徒歩4分

チケット料金:一般3,200円/学生1,800円(学生証提示)

リピーター割引:(チケット半券提示で)各回500円割引

「わたしたちは日々の子ともである」「わたしたちは時間のできている」という表現は、人間が時間から自由になれない存在であることを示したものだろ。それはつまり、人間はどれだけ大人になっても、過去から見れば「子ども」であるということだ。

